

# 古文書を読む会学習記録

作成日 平成30年 8月24日

開催日	平成30年 8月23日	時 間	10:00~12:00
場 所	区民活動センター	受 講 者	17名
講 師	真田 雅行氏	作 成 者	山根 美智子
テーマ	第二学習 艱難実録(函館戦争)(中)⑫		
概 要	<p>10/3に仙台沖を発した旧幕府軍脱走兵は20日に鷲ノ木(函館の北方)に上陸した後、箱館周辺での戦(箱館戦争)が開始された 今回は上陸から旧幕府軍が五稜郭を占拠するまでの間の出来事を読む &lt;前回より&gt; 榎本から三公(備中松山の板倉侯、唐津の小笠原侯、桑名の松平侯)については平人として処遇するとの事で随従する家来にとっては承服し難い事であった。 &lt;今回&gt; ところが板倉侯はそれを納得し家来を疎む様子で、とりわけ直言する辻には殊更であり「君は臣により、臣は君に頼り、君臣一致」と考える辻にとっては由々しき事態であった</p> <p>一、此の頃の注進 峠下、大野村、七重村等にて官軍との戦争に勝利。五稜郭、箱館も難無く落とし、松前、江刺まで一円を手中にした 負傷者は鷲ノ木の病院に収容され「三公とも病院残らず見廻」となった この戦で遊撃隊隊長が負傷の後死亡、小笠原公弟三好豊様討死等 この間数日の出来事であった</p> <p>一、その内に病院の方も手隙になったので「三公当所辺御取締御持」であった兵隊等の不法の有無を探索し処置取締をした。その後当地にあっては戦況の詳細は分からず場合によっては参戦もと思っていたので、三公の箱館への遷居(避寒を考慮して)を伺い旁箱館に向かった。途中箱館より帰途の成瀬に遭遇。「対州に内談したところ暫くは鷲ノ木にいるように、森村位ならよい」との事であった 直接その旨、伝えるべく悪路を越えて箱館へ向かいそこに滞在していたが松前も平定となり、其の俣になってしまった。</p>		
次回予定	平成30年 9月13日 10:00~12:00 於:区役所区民活動センター 第一学習 野嶋浦 鈴木家文書⑨		